

2024年3月12日

日本風力エネルギー株式会社 御中

日本野鳥の会島根県支部
支部長 田原 博
島根県益田市安富町 1820

公益財団法人 日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一
東京都品川区西五反田 3-9-23
丸和ビル

(仮称) 島根県浜田市風力発電事業 環境影響評価準備書についての意見 (案)

これまでまとまった鳥類調査が行われていなかった対象事業実施区域 (以下、計画地) を含む地域で大規模な調査が行われ、結果として環境影響評価準備書 (以下、準備書) 734P に示されるように 117 種もの多様な鳥類の生息が確認されたことをまずは評価したい。

特に猛禽類について、準備書 752P 表 10.1.4-9 (1) に示されているように 15 種 (タカ目 10、ハヤブサ目 3、フクロウ目 2) が計画地の周辺で記録されている。中でも絶滅危惧種 IB 類のクマタカは高頻度で確認されている。生態的地位の高い希少猛禽類がこれだけ確認されたということは、この地域の生物多様性と自然度の高さの証拠である。計画地周辺の比較的狭い範囲でこれだけの希少猛禽類が記録される貴重な場所に風力発電施設を建設すると、風車への衝突死や営巣放棄などの影響が生じる可能性が高いと考える。そのため、大規模な自然改変を伴う風力発電施設を今回の計画地に建設することは、絶対に避けるべきである。

クマタカについて

準備書 817P に示されるように、絶滅危惧 IB 類のクマタカが事業区域の周辺で 4 つがいも繁殖していることが確認され、限られた調査期間内だけでも 736 例もの確認例があった。つまり、この地域はクマタカの生息密度が高く、かつクマタカの高利用域が含まれることが示唆される。

準備書では希少猛禽類であることを理由にクマタカの飛翔図等が全て伏せられているので詳細は不明であるが、クマタカの確認数と準備書 933P に示されたクマタカの年間予測衝突数予測モデルの図から建設予定地周辺がクマタカの高利用域であることが推察される。

準備書 929P 表 10.1.4-78 では、事業区域内の改変率をもとに餌資源量の推定を行い、クマタカの生息に影響は小さいと評価しているが、高利用域の中心付近の尾根に巨大な風車を 8 基並べる風力発電所の建設は、工事中はもとより、稼働後もクマタカの生息環境に大きな影響を与えると考える。準備書では、まだ検討段階であり、2024 年 1 月 29 日から 2 月 27 日までパブリックコメントを募集中していた「風力発電事業におけるクマタカ・チュウヒに関する環境影響評価の基本的な考え方 (案)」について引用し、「クマタカへの影響はほとんどない。」としている。しかしこの文書は未だ確定したものではないため、未確定の資料を引用してクマタカへの影響についての判断をするべきではない。

さらに、保全措置としては、工事中の騒音を低騒音型の建設機械を用いると述べられているが、工事計画にはクマタカが神経質になる繁殖期の工事中断等の配慮事項は全く示されておらず、これでは工事によるクマタカへの影響が配慮されているとはいえない。

鳥の渡りについて

猛禽類の渡りが確認されており、かつ飛翔高度が風車回転翼の高度 M を飛翔したものが、わずかな調査期間中であるにもかかわらず、161 例もあった。その他の鳥類でもヒヨドリ、ツグミをはじめとして多数の鳥類の渡りが記録されている。年間を通じれば、相当の数に上る鳥類が通過していることが示唆される。専門家からの意見（370p 表 8.2-1(3)）でも当該地が渡り鳥の移動経路となっている可能性も指摘されている。また、鳥によっては夜間の渡りをする種も知られているが、夜間の渡りについては調査がされていない。

さらに、準備書 821p および 822p によれば、令和 4 年秋季、令和 5 年春季に確認された猛禽類の渡りのほとんどが高度 M を飛翔しており、この地域への風車設置がバードストライクまたは大規模な障壁影響に夜渡り経路の変化を起こすリスクが高いことが予測される。この点については準備書の評価ではあまり取り上げられず、机上の予測式である衝突予測式を用いて小さな数値を提示し、影響はほとんどないと予測している。評価の最後に申し訳程度に「これらの予測には高い不確実性が伴うと考えられるので、事後調査を行・・・。」と記されている。事後に調査を実施しても鳥類の渡りに影響が出れば取り返しはつかない。そのため、鳥類の渡り経路上での風力発電施設の建設は避けるべきである。

ミゾゴイについて

調査結果では絶滅危惧 IB 類のミゾゴイが確認されている。本調査では計画地外での確認であったが、ミゾゴイは溪流の沢を主な餌場としており、本建設計画により主たる餌場を喪失することになると考える。準備書では、「本種の主な生息環境である樹林環境が改変区域に含まれることから、事業の実施により、生息環境が減少する可能性が考えられる。しかし、樹林環境の改変率は 改変による生息環境の改変率が 7.60%と小さいこと(表 10.1.4-73)から、影響は小さいものと予測する。さらに、可能な限り既存道路等を活用することで、造成を必要最小限にとどめる等の環境保全措置を講じることから、改変による生息環境の減少・喪失に係る本種への影響は低減できるものと予測する。」と評価している。しかし、急斜面の谷の上部に巨大な構造物や裸地、さらには広大な埋地を作ることになる本計画では谷の下に土砂が流れ込むことが十分予想され、ミゾゴイの重要な餌場である沢に大きな影響を及ぼすことが予測される。

フクロウについて

準備書 948P 表 10.1.4-78 (13) では、「対象事業実施区域内で確認されていることから、ブレード等への接触の可能性が考えられる。しかしながら、対象事業実施区域内では 3 回のみでの出現であること、高度 M での飛翔は確認されなかったこと、面的な構造物を設置するものではなく風力発電機の設置個所周囲に限らず周辺を広く利用することが可能であることから、ブレード等への接触の可能性は低いものと予測する。」とされている。本評価を導き出した調査方法について、調査結果では、高度 M での飛翔が確認されていないとのこと記述があるが、夜行性のフクロウの飛翔を高度 M (24~196m) でどのような方法で確認したのか。準備書にはその説明は見られなかった。

こうしたことの不備から準備書における影響評価には大きな疑問点がある。このような風力発電所建設ありきの準備書には大きな問題があると考える。

結び

上記縷々述べてきたように、計画地には貴重な鳥類が生息しており、その生存を脅かす恐れのある大規模な風力発電所の建設中止を求める。